

よろしくない」と(東京朝日)

ポンチ畫の勢力

△倫敦の『ポンチ』といふ雜誌は、往時巴里で發行された『シヤリヴァリ』といふ滑稽雜誌を真似したもので、今でも『ポンチ』は一名『ロンドンシヤリヴァリ』と稱してゐる。

△『ポンチ』とは、英國にポンチ及ヂユヂーといふ男と女の人形があつて、此人形を躑らせて様々な滑稽な事を遣つて見せる見世物がある、それが雜誌の名になつたのである、それであるから、英語のポンチは勿論畫のことではないのである。

△パツクといふのは、大昔に英國に住んでゐたといふ人の名で、非常な滑稽家であつたそうだが、其人の名は英米の雜誌に用ひられ續いて近來日本へも入つて來たのである。

△西洋で諷刺畫の起つたのは古いことであるが、盛んになつたのは十五世紀頃で、十八世紀の末には一層隆盛を極めた、クルツクシヤツク(トースス)、ランドシア、リーチ、テニエル等は諷刺畫家として有名であつた、今英國で名高いのはモーリアー、ファイルメイ、ベルグリニ畫名(エープ)、ワード(スパイ)ビーボアム(マツクス)等の諸氏である。

△凡筆の人には諷刺畫はかけぬ、外國の諷刺畫家は孰れも畫家として非凡な人である、一枚の畫は大文豪が百萬言を連れたよりも効がある

△曾て佛國の諷刺畫家は一本の筆で内閣の總辭職をさせた、倫

敦の『ポンチ』はピスマークの辭職を題として世界の相場に大變動を起させたことがある

△日本の諷刺畫は未だ低い程度に居る、諷刺畫が振ふやうでなくては日本の藝術はまだ駄目である、將來大に發達させたいものである、(萬朝報)

△ △ △
スペインの畫伯ヴェラスケスは國王ヒリッポ四世の寵遇を受くること厚かつた。國王はマドリッドの宮中に畫室さへ設けてこれを與へ、且屢々此所へ訪問した。

ヴェ氏が彼の名高い『官女』を描き、畫中に畫家自身が畫架に對して作業するの像を描き加へたとき、國王は少からず興味を起して毎日、歩を畫室に運ばれた。或日ヴェラスケスはパレットを置き筆を投げて、出來上がつた事を王に告げた。ところが王は「否、尙一ヶ所欠けて居る所がある、」といひつゝ畫筆をとつて畫中ヴェラスケスの像に加筆し始めた。

ヴェラスケスは驚いて凝視してゐた、最後のタッチを國王が描き終へた時に、最高の勳章が自分の像の胸部に描き出されたのを見た。(MO生投)

* * * * *

* * * * *